

摂南経済研究第13巻第1・2号に寄せて

経済学部長  
柳川 隆

2022年4月から久保廣正前学部長の後を引き継いで学部長となりました。摂南経済研究第13巻の刊行にあたり、この1年間を振り返って一言申し上げます。2022年度からは学長方針により全面的な対面授業が復活しました。マスクを着用し、アルコール消毒を多用し、換気に気を使うことは続きましたが、ようやくコロナ前のように学生たちはキャンパスで大学生らしい生活を送ることができるようになりました。コロナ禍で延び延びになっていた10周年記念講演会も2年遅れで12周年記念講演会として開催いたしました。7月22日にブリュッセル・スクール・オブ・ガバナンスのミハエル・ライテラー (Michael Reiterer) 特別荣誉教授 (元駐日EU公使、駐スイスEU大使、駐韓国EU大使) をお招きし、「ウクライナ戦争のEUと日本への影響 (Implications of the War in Ukraine for EU and Japan)」について300名近くの参加者に向けてご講演いただきました。

コロナ禍のなかで身に付けたオンライン授業の経験を生かして、対面授業のなかでもTeamsやMoodleをさまざまに用いて授業の質を高めることができました。反転授業といった新しい授業形態も一部取り入れられるようになりました。また海外も含めオンラインで授業や講演会、学生の研究報告会を行うという活用は引き続き行われています。10月25日には、クリス・デイビス (Chris Davies) 氏による「欧州議会が摂南大学にやってくる (EP to Setsunan Campus) !!」という特別講演会を行いました。デイビス氏はイギリス下院、EU議会の議員を経験されており、「EUの気候変動・環境政策」についてご自身の経験を踏まえたお話しを、イギリスからオンラインでご講演いただき、摂南大学の会場には90人を超える参加者がありました。

コロナ感染に注意しつつ、ゼミや実践演習などで学外に出かけることも行うようになりました。2月には海外 (イタリア) への実践演習での渡航も久しぶりに行ないました。次年度はその他の海外渡航も計画しており、いよいよコロナ禍での活動制限から完全復活することができると期待されます。

2023年度は大学認証評価を受けるとともに、新たな中期計画が始まる年となります。認証評価を受けるために、経済学部でも自己点検・評価を行ってこれまでの活動を振り返るとともに、5年後の姿を見据えて新たな計画を練っています。経済学部の教員は何度も熱心に議論を行っているところであり、いっそう魅力ある摂南大学経済学を関係者の皆様とともに作り上げていきたいと考えています。今後とも引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。